

女帝苑五色巻
拾

遠 13
710
7止



三好
相摸
志
木

女
郎
花
種員作
國輝畫

五色
石臺

第六編

上
冊

甘泉文庫

遠 18
770
卷 7

六編

明治三十二年十月十三日
坪海村氏寄贈



女郎花色石臺

種員作

國輝画

女頭御子



春小長三物も何々ぞ果かく引う八重霞その空中よ操いど
 幼童遊びけ風箏の糸並ぶ軒端の注連繩或ハ鮎賣の後引
 聲ふどいづも長三東西の未をまよりをなかり巻中よ在
 芦平と於段が昔譚真中ハ此六編よ載まじ首と尾と七編と五編
 垂たる話の形容を擬てまうらん六拜年客よ差くも豪盤の上
 小布たる長熨斗めが率酔もをんて讀せとるつ扱をながしと
 各位の呆て玉掌と打蛇真珠の光明作意あるれハ阿波の男袂磯
 が故事と遠く違ど彼國よ近き淡路島よ蒼海王が生立の一段
 込綴最々長三春は日ま如草ふと四方小鬻なり

嘉永水甲寅木玉月
 八 柳下亭種員誌



をみ

守一

おきま

の

おきま

おきま

お六孫

下冊

多祿

の化

画

画

和泉屋板



引砂の如乃
 春風ふき寄
 て尾上の鐘を
 ひびくま

芦平が老妻
 於葭

手嵐
 半七の
 渾家
 於花



播磨國明石浦多

茶麿の老父
 芦平





宗景の傍妻

繪嶋

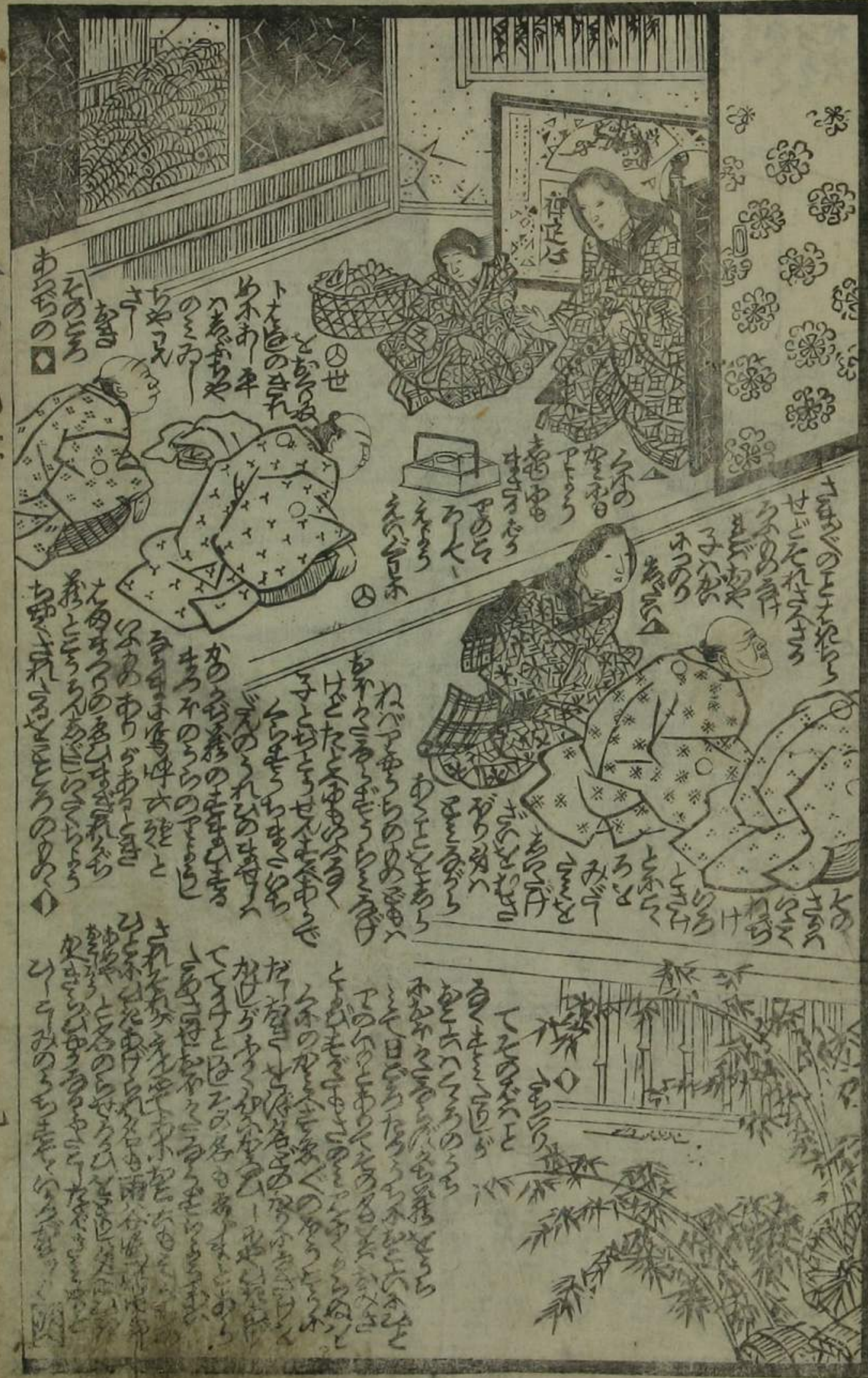
鳴呼
四郎



津路國領主
津名兵庫助宗景

津名家の
目代
兩谷







女部花六



女部花六

嘉永七甲寅新板目錄

地本草紙問屋 芝神明前 和泉屋市兵衛板

小栗十騎 照天松操月鹿毛

初編 二編 春風亭柳枝作
一雄齋國輝畫

今業平昔面影 仙果作 芳虎画

為永春水作 歌川國貞画

風俗淺間嶽 種久作 國貞画

黄金水大盡盃 初編 二編 三編

女郎花五色石臺 六編 七編 八編

柳下亭種員作 一雄齋國輝画

小女郎蜘蛛心麻環 三編 大尾

曲亭馬琴作 一勇齋國芳画

國輝画



種員作









七



同の歌をよめつるのたれ
 ふのちあしきかたきつら
 火をともすもくもくつら
 うちもろくもろくつら
 つゆもろくもろくつら
 下ゆい毛六つ助のあ入
 こもろくもろくつら
 新屋のあみちりつら
 てのそとあみちりつら

宗

宗



宗

宗

女行巻六

十一

